

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400969
法人名	株式会社 ジェイバック
事業所名	グループホームもも太郎さん米沢
訪問調査日	平成 20 年 3 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	670400969
法人名	株式会社 ジェイバック
事業所名	グループホームもも太郎さん米沢
所在地 (電話番号)	山形県米沢市通町5丁目3番46号 (電 話) 0238-37-0845

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年5月1日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 4 人, 非常勤 20 人, 常勤換算	14 人

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5歳 78.1歳	最低	55 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	舟山病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存のアパートを改装したホームでは「家族の絆」「自由を尊重する」という理念の実現に向けて、一日一日を大切にできる支援を目指しています。利用者に日課を強いることなく「その人」に合わせた過ごし方の工夫をしてみることで、利用者が何を望んでいるのかを考えながら、一人ひとりが持っている力を引き出す関わり方をしていくことなどに、家族とも協力しながら職員全員で取り組んでいこうとしています。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査時には食材料費負担の関係から職員は弁当を持ってきて食べていたが、この間の取り組みや働きかけによって法人の理解と協力が得られ、今回調査時には職員と利用者が、同じ食卓で同じ内容の食事を食べられるように改善されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義が職員に説明されており、前回の評価結果と比較しながら職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には利用者代表、家族代表、地区長、隣人、高齢福祉課職員が参加し、グループホームの説明や地域密着型サービスの説明が行われているが、18年10月と19年8月の2回しか開催されていない。運営推進会議での話し合いの中で意見を出してもらい、ホームの取り組みのモニター役になってもらうためにも、運営推進会議を定期的に開催し、より活用していく取り組みが期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や家族の会話の中で意見や要望を聞くようにしており、洗濯物やオムツ交換等についての意見をホームの運営にも反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会しており、地域公民館主催の救急講習会に参加したり、盆踊りなどの行事にも参加している。また、ホーム行事への近隣からの参加、利用者で行うゴミ出しや散歩の場面でも、あいさつや会話による交流がみられる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を分かりやすく具体的に、事業所にあった理念につくりあげているが、地域密着型サービスとして事業所独自の理念をつくりあげるまでに至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を考えながら、事業者独自の理念をつくりあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目に触れやすいところに理念を掲示しながら、いつでも振り返りができるようにしている。また、理念を振り返ることで利用者一人ひとりに合った支援ができていくか職員で話し合い、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、地域公民館主催の救急講習会に参加したり、盆踊りなどの行事にも参加している。また、ホーム行事への近隣からの参加、利用者を行うゴミ出しや散歩の場面でも、あいさつや会話による交流がみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義が職員に説明されており、前回の評価結果と比較しながら職員全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者代表、家族代表、地区長、隣人、高齢福祉課職員が参加し、グループホームの説明や地域密着型サービスの説明が行われているが、18年10月と19年8月の2回しか開催されていない。	○	運営推進会議での話し合いの中で意見を出してもらい、ホームの取り組みのモニター役になってもらうためにも、運営推進会議を定期的開催し、より活用していく取り組みが期待される。

山形県 グループホームもも太郎さん米沢

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の医療行為の相談や家族部屋の活用の仕方について、管理者が市町村担当者に相談に出向き、関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、電話や面会時に報告をしており、個人ごとにお便りも作成して送付する予定である。また、職員の異動はなかったが、今後異動があった場合には、お便りや広報の活用を考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族の会話の中で意見や要望を聞くようにしており、洗濯物やオムツ交換等についての意見をホームの運営にも反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	Aユニット、Bユニットの職員全員が利用者と馴染みの関係ができており、異動があっても利用に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャーの資質向上の研修、事例研修、リハビリテーション研修に参加し、その内容はミーティングの際に職員間で共有されている。特に、リハビリテーション研修内容は、日課の中にも取り入れ、利用者のサービスの質の向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会(置賜地区ブロック)の勉強会参加、法人内の職員ボランティアの訪問はあったが、同業者間の相互訪問による交流や研修等はまだ行われていない。	○	同業者間の相互訪問による交流や研修等の機会を設ける取り組みも期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃の会話を大切にすることにより、その時々を思いを共感できるようにしている。また、生活の中で若い職員がわからないことを教えてもらったり、食材や調理のアドバイスを受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情を通して、常に利用者の思いを敏感に感じるようにしている。また、書いてもらったり、身振り・手振りで表現してもらうことから、利用者の思いや意向の把握をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者の意向を組み入れた介護計画書になっており、職員の気づきを話しながら計画書を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに評価と見直しが行われており、状態変化時には現状に即した計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	できるだけ馴染みのかかりつけ医に受診できるように支 援している。また、緊急時には往診してもらったり、適切 な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	状態が悪化した場合は、かかりつけ医と連携を取りなが ら家族とも話し合いを持ち、対応方針を共有できるよ うにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	排泄誘導は小声でさりげなく行う、入浴時の脱衣はバ スタオルをかけるなどの配慮をしている。また、日誌は 他者の目に触れないように記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	近所に鯉を見に行ったり、お嫁さんの家に行ったりして おり、希望を尊重した個別ケアの提供に取り組んでい る。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員が交替で利用者の好みも入れながら立てており、また「ラーメン・ツアー」に出かけたり、天気の良い日は弁当を持って出かけたりしながら、食事が楽しみになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら一日おきに入浴できており、三日以上入浴間隔が開いた場合には、優先して入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度の手伝い、利用者の理容を担当してもらう、カラオケを楽しむ、ドライブや買い物に出かけるなど、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に出かけたり、近くの公園に向くなど、戸外に出られるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけないで自由にホームに出入りできる環境づくりを心がけており、職員の声かけや見守りにより、安全に過ごせるよう配慮している。また、職員が一人になる時や、やむを得ず施錠しなければならない場合は、家族にも説明されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の確認と対応マニュアルの作成はなされているが、災害を想定した訓練は行われていない。	○	避難訓練実施等の災害対策を進めること、また、地域の人々や消防関係者の協力が得られるよう働きかけることなどの取り組みも期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量は記録に残し、状態に応じた食事の提供に努めている。また、一日の水分摂取量が把握されており、利用者の状態に合わせ、ポカリスエットやジュースなども提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる食堂にはソファが用意されており、いつでも自由に休めるようになっている。また、廊下には、利用者が書いた絵や習字、季節の飾り付けがなされ、明るく居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、冷蔵庫、仏壇、サイドボード、食卓など、本人の好みのものが多く持ち込まれており、安心できる居室となっている。		